

国語 第3学年 しょうかいする文章を書き、感想をつたえ合おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版の令和6年度版『国語』第3学年下巻に載っている書くことの教材。単元名と配当時数は光村図書の年間指導計画例（12月）による。ほかの会社の教科書を使う学校は、同じ指導事項（B(1)オ・〔知識及び技能〕(2)ア）と言語活動（B(2)ア）を扱う、紹介する文章を書く単元に置き換える。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、町の場所・物・行事・人の中から紹介したいものを一つ選び、よいところと、そう思うわけを見たことや聞いたことから挙げて、初め・中・終わりのまとまりで紹介する文章を書ける。そのうえで友達と文章を読み合い、よいところとわけが伝わったかについて、文を挙げて感想を伝え、友達の感想を手がかりに自分の文章のよいところを言えるようになる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕 B 書くこと(1)オ	オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)ア	ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。
〔第3学年及び第4学年〕 B 書くこと(1)ア	ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
〔第3学年及び第4学年〕 B 書くこと(1)イ	イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。
〔第3学年及び第4学年〕 B 書くこと(1)エ	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えること。
〔第3学年及び第4学年〕 B 書くこと(2)ア	ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。
〔第3学年及び第4学年〕の目標(2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
〔第3学年及び第4学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(5)	(5) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動になるべく多くすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

単元の目標

考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解する（(2)ア）。相手や目的を意識して町のよいところから書くことを選び、内容のまとまりで段落をつくって紹介する文章を書き、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける（B(1)ア・イ・オ）。言葉がもつよさに気付き、思いや考えを進んで伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）	①「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。（B(1)オ）	①町のよさが読む人に伝わるかを粘り強く確かめながら書き、学習の見通しをもって、紹介する文章について感想を伝え合おうとしている。

単元の流れ

全10時間（書くこと10時間）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（3年）が、この単元を書くこと10時間を配当している（12月）。次ごとの内訳（1・7・2）はこちらの案。学校の年間指導計画に合わせて増減する。学習指導要領は第3学年及び第4学年の書くことに年間85単位時間程度を配当するとしている（第3の1(5)）。国語の標準授業時数は第3学年で年間245単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○自分たちの町にある場所・物・行事・人を思い出して出し合う。 ○学習課題「町のよいところを紹介する文章を書き、感想を伝え合おう」を立て、紹介する相手と学習計画を決める。	態①（発言・ノート）
第2次	2	○紹介したいものを書き出し、それぞれについて「よいところ」と「そう思うわけ」を図に広げる。	
	3	○紹介するものを一つ決め、写真や見学のメモ、家の人に聞いたことなどから、わけになることを集める。	知①（図・メモ）
	4	○組み立ての例（先生が教科書から示す）を見て、初め・中・終わりに何を書くかを確かめる。	
	5	○組み立てメモを作る（初め＝紹介するもの、中＝よいところとそのわけ、終わり＝読む人へのよびかけ）。	知①（組み立てメモ）
	6	○文章の例（先生が教科書から示す）を読み、紹介する文章を書く時の工夫を確かめる。 ○初めの段落を書く。	
	7	○中の段落を書く。よいところとそのわけを、まとまりごとに段落を分けて書く。	知①（下書き）
	8	○終わりの段落を書き、読み返して間違いを直す。写真や絵を添えて仕上げる。	態①（文章・読み返しの記録）
第3次	9 （本時）	○グループで文章を読み合い、よいところとわけが伝わったかについて感想を伝え、自分の文章のよいところを見付ける。	思①（感想カード・ノート）
	10	○感想を基に自分の文章のよいところをまとめ、紹介する相手に届ける準備をする。 ○学習を振り返る。	思①（ノート） 態①（振り返り）

本時の案

本時の目標：友達と紹介する文章を読み合い、町のよいところとそのわけが明確に書けているかについて感想を伝え合って、自分の文章のよいところを見付けることができる。(B(1)オ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前時に仕上げた紹介する文章を手元に置き、学習計画で本時の学習を確かめる。 2 感想を伝える観点を考える。 ○「町のよいところが伝わる文章には、どんなことが書いてありましたか」 【めあて】町のよいところが伝わるかを考えて読み合い、自分の文章のよいところを見つけよう。 〈予想される児童の反応〉 ・よいところと、そのわけが書いてある。 ・見たことや聞いたことが書いてあると、行ってみたいくなる。 ・終わりに「行ってみてください」とよびかけている。	・子どもの言葉から、観点を「よいところ」「わけ（見たこと・聞いたこと）」「読む人へのよびかけ」の三つにまとめて掲示する。 ・何が書いてあるか（内容）と、どう書いてあるか（書き方）の両方に目を向けることを伝える。
展開 (分)	3 三人か四人のグループで、文章を順に読み、感想カードに書く。 ○「この文章を読んで、いちばん行ってみたいくなったのはどこですか。どの文からそう思いましたか」 4 感想カードを渡しながら、書き手に感想を伝える。書き手は、伝わってうれしかったことを返す。 5 全体で、友達の文章のよいところを紹介し合う。 〈予想される児童の反応〉 ・公園の遊具のことに、自分が遊んだ時のことが書いてあって、楽しさが伝わった。 ・「なぜかというと」の後に、わけが二つあってはっきりしている。 ・写真があるので、どこの場所かがすぐに思い浮かんだ。 ・お店の人に聞いたことが書いてあって、初めて知った。	・感想カードは「いいなと思った文（書き写す）」「そう思ったわけ」の二つの欄にする。 ・感想が言えない子には、観点の掲示を一つずつ示し、「わけはどこに書いてあったか」から聞く。 ・「おもしろかった」だけの感想には、「どの文で、どうしてそう思ったか」と返す。 ・グループは、同じものを紹介した子が重ならないように先生が組む。 ・端末で文章と写真を共有している場合は、コメントで感想を伝えてもよい。 ・全体の紹介では、わけの書き方が違う二つの文章を取り上げ、どちらのよさも認める。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	6 友達からもらった感想カードを読み、自分の文章のよいところをノートに書く。 （型）「わたしの文章のよいところは、…です。…さんが…と言ってくれたからです」 7 振り返りを書く。	・よいところは、友達の感想カードの言葉を使って書かせる。 ・振り返りは「自分の文章のよいところ」「今度書く時にいかしたいこと」の二つで書かせる。 ・次時は、紹介する相手に文章を届ける準備をすることを伝える。 ◎思① 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。（感想カード・ノート）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に日付、題名、めあて。その左に、感想を伝える三つの観点（よいところ・わけ・読む人へのよびかけ）を短冊で並べ、それぞれに「内容」「書き方」の札を添える。中央に、全体で紹介した二つの文章の、わけを書いた文を拡大して並べて貼り、「なぜかという」と「～からです」などの言葉に線を引く。その左に、子どもから出たよいところを観点ごとに書き足す。左端に、自分の文章のよいところを書く型と、振り返りの観点二つ。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、紹介するものが決まらない、または「町ぜんぶ」のように大きすぎる。手当ては、場所・物・行事・人の四つの仲間できき出させ、いちばん伝えたいものを一つに絞らせること（B(1)ア）。二つ目、よいところを並べるだけで、わけが書けない。手当ては、「よいところ」と「わけ（見たこと・聞いたこと）」を組にして書く図を使わせること（(2)ア）。三つ目、感想が「おもしろかった」「上手」で終わる。手当ては、観点を掲示し、いいなと思った文を書き写してから感想を書く順にすること（B(1)オ）。四つ目、自分の文章のよいところが見付けられない。手当ては、友達の感想カードの言葉をそのまま使って書いてよいことにすること。五つ目、学区が広い、転入してきたばかりなどで、町の様子をあまり知らない子がいる。手当ては、学校のまわりや通学路で見付けた物でもよいことにし、社会科の町探検の写真や地図を使わせること。

プリントの案

よいところとわけの図

まん中に紹介するものの名前を書く丸。そこから線をのばして「よいところ」の枠を三つ、それぞれの先に「わけ（見たこと・聞いたこと）」の枠を付ける。〔知識及び技能〕(2)アの、考えと理由の関係に合わせた。

組み立てメモ

初め（紹介するもの・どこにあるか）、中（よいところ一とわけ・よいところ二とわけ）、終わり（読む人へのよびかけ）の枠。中の枠は段落を分けて書けるように二つに分ける。B(1)イに合わせた。

原稿用紙（写真や絵の枠付き）

3年生用のマス目の原稿用紙の上に、写真を貼るか絵をかく枠を付ける。最後のマスの下に、読み返しの三つの点検（よいところとわけが組になっている・段落を分けた・字の間違いを直した）の欄。B(1)エに合わせた。

感想カード（本時）

読んだ相手の名前の欄と、「いいなと思った文（書き写す）」「そう思ったわけ」の二つの欄。下に、よいところ・わけ・よびかけの三つの観点を並べ、話題にした観点到丸を付ける。B(1)オに合わせた。

自分の文章のよいところカード

「わたしの文章のよいところは、…です。…さんが…と言ってくれたからです」の型と、「今度書く時にいかしたいこと」の枠。友達の感想カードを貼る場所も付ける。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価規準の文末と3観点的形、「書くこと」などの領域の書き出しの形（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第3学年245）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画資料（令和6年度版）の一覧ページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／光村図書出版 年間指導計画例 3年（Excel）「3年下巻」。単元名「しょうかいする文章を書き、感想をつたえ合おう」・教材名・書くこと10時間・12月の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重